

歴史資料ネットワーク（略称：史料ネット）

代表者	奥村 弘（神戸大学大学院人文学研究科教授）
所在地	〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1 神戸大学文学部内
設立年月日	1995年2月4日
URL	http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/ http://blogs.yahoo.co.jp/siryonet/

【設立趣旨】

歴史資料ネットワークは、自然災害からの歴史資料保全を行うためのボランティア団体です。1995年1月17日に発生した阪神・淡路大震災を契機として設立されました（図1）。大阪歴史学会、日本史研究会、大阪歴史科学協議会、京都民科歴史部会、神戸史学会、神戸大学史学研究会、神戸女子大史学会など関西に拠点を置く学会をはじめ、若手を中心に大学教員や院生・学生、史料機関職員、地域の歴史研究者などが参加し、活動を行っています。被災した史料の救出活動を行うだけでなく、その活用を図り、地域へ成果を還元するために市民向けの講演会や見学会などの企画を催しています（図2）。



（図1）1995年3月11日芦屋市K家レスキューの様子



（図2）救出史料の活用し、市民講座の場で保全の成果を還元

【沿革】

◆1995.2.4

神戸大学文学部奥村弘氏・大阪歴史科学協議会・大阪歴史学会・日本史研究会各担当者が尼崎市立地域研究史料館を訪問・協議

阪神大震災対策歴史学会連絡会の結成と史料館内への情報センター設置を確認

（後日、京都民科歴史部会・歴史学研究会も連絡会に参加）

◆1995.2.13

尼崎市立地域研究史料館内に歴史資料保全情報ネットワーク（略称史料ネット）開設

ボランティアの常駐ならびに情報提供・依頼・相談の受付を開始

◆1995.4.10

神戸大学文学部内に、史料ネット神戸センターを開設

（95.6.9より尼崎市立地域研究史料館からセンター機能を移転）

◆1995.6.19

神戸市文書館内に史料ネット神戸分室開設、被災史料調査について文書館と連携開始（～95.10）

◆1996.4

ボランティア組織として歴史資料ネットワーク（略称史料ネット）に改組

◆2002.5.26

歴史資料ネットワーク改組、会員制に移行。

【活動内容】

基本的な活動内容は以下の6点です。

- ① 阪神・淡路大震災後の保全歴史資料の保存と活用
- ② 阪神・淡路大震災の資料・記録の保存と活用
- ③ 被災地を中心とする市民の歴史研究活動の援助
- ④ 大規模自然災害についての史料保全・歴史研究についての提言
- ⑤ 大規模自然災害の際の歴史学会の史料保全活動の暫定的なセンター的役割
- ⑥ 市民社会の中での歴史資料のあり方についての研究

【活動上の課題と今後の展望】

2004年の福井水害に対しては、史料ネットからボランティアを派遣し、地元でのネットワークづくりと被災地巡回調査に協力し



（図3）福井水害被災地に史料ネットメンバーを派遣（福井県今立町）

ました（図3）。また、同年の台風23号による兵庫県北部・京都府北部の水害被害（図4、5）に対しては、水損史料の救出活動を展開しました（図6）。これは、史料ネットとして初めての風水害対応でした。現在、その経験から生まれた吸水乾燥方法を広く伝えるために、各大学や自治体で「巡回水損史料ワークショップ」を開催しています（図7）。



（図4）みそ蔵での汚損古文書（兵庫県日高町）

●活動上の課題

多岐にわたる活動を展開していますが、ボランティア団体であるため資金面や人的労力に限界があることです。



（図5）陰干しされていた水損史料。白くみえるのはカビ（兵庫県日高町）

また、阪神・淡路大震災から時間を経たことで活動の中心的な担い手が世代交代し、ノウハウの継承が課題となっています。



（図6）水損史料の保全の様子（兵庫県日高町）



（図7）水損史料ワークショップ（於東北芸術工科大学）